平成四年夏のフィーバー再現観戦記②

台風十一号の影響で、つい1時間前まで降り続いた雨が上がった。午前九時を少し回って、さァ、いよいよ試合開始だ。敵は優勝候補ナンバーワンの呼び声高かった東京代表帝京高校を下した尽誠学園高校。マウンドに立つのは、春の選抜大会の覇者・名にし負う強力打線をわずか4安打完封した渡辺投手。わが能代高としても油断はできない。

開始早々 先制点を許す

1回表（能代） 池端、柳谷、大塚の3者、いいところなく凡退。

ナニ、ここまでは敵の様子を探る場面だ。あわてるほどの投手ではない。じっくり行こう、とスタンドの観戦士は達観する。

1回裏（尽誠学園） 2番田中のショートゴロを、土崎一塁へ低投。3番仲村をレフトライナーに討ち取ったものの、4番榎原にセンター前に痛打される。1回戦で好守を見せた池端ノーバウンドでの捕球を狙ってかなわず抜かれ三塁打とし、早くも1点を先行される。

晴天下の1回戦とは違い、グラウンド・コンディションはやや軟弱。血気にはやらず落ちついてさばいていこう。ワンバウンドで押さえておけば、シングルヒットだったのだ。まァ、いいではないか。まず相手に先に塩を贈っておいて、最終的に逆転で締めくくるのが、わが能代高の極めて高等な常套作戦であり、秋田県人特有の人のよさなのだ。

2回表 3者凡退。

3回表 3者凡退。

さすが、1回戦で強打帝京を完封した渡辺投手、付け入る隙を全く見せない。これが何とかいう、どこぞの元首相クラスが相手ならば、わが応援団も1日右翼団体となって「ほめ殺し」という手も考えられるのだが……。そのような作戦に動じるような敵ではない。

恵みの雨 尽誠にほほえむ

4回表 再び雨が降り始める。柳谷四球で初の出塁。だが、大塚とのバントエンドランをはずされ、柳谷二塁盗塁失敗でアウト。

この回まで、毎回の5三振。いかにバッティングに自信があっても、いたずらに大振りを重ねるのはいかんよ、大振りはなァ大塚君。ここで雨脚がさらに強くなる。雨の中での能代はどうか。いずれにしろ、正々堂々の勝負でいこう。泥仕合

能　　代 0 0000000000
尽誠学園 7 10010320×

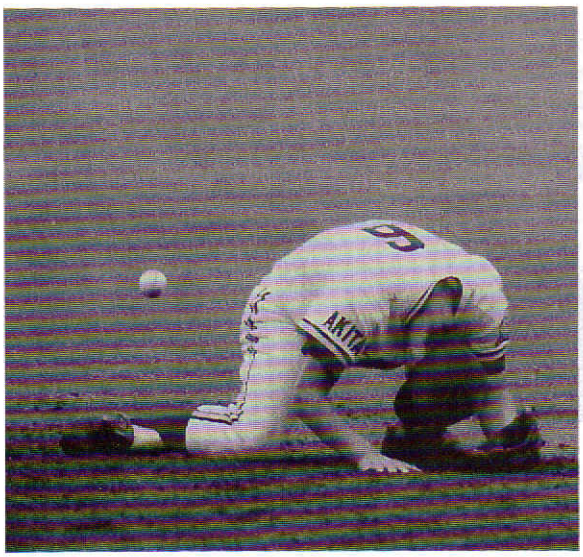
【能　代】	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9
〔中〕池　端	3	0	0	0	投ゴ	…	…	三振	…	二飛	…	…	…
打　三　戸	1	0	0	0	…	…	…	…	…	…	…	…	遊ゴ
走　川　原	0	0	0	0	…	…	…	…	…	…	…	…	…
〔右〕柳　谷	2	0	0	0	三振	…	…	四球	…	…	三振	…	…
投　村　上	0	0	0	0	…	…	…	…	…	…	…	…	…
打　根　市	1	0	0	0	…	…	…	…	…	…	…	…	捕邪
〔左〕大　塚	3	0	0	0	一飛	…	…	三振	…	…	死球	…	左飛
〔捕〕加　藤	3	0	1	0	…	遊飛	…	…	左2	…	中飛	…	…
〔投〕右成　田	3	0	0	0	…	投ゴ	…	…	三振	…	左飛	…	…
〔一〕菊　地	3	0	0	0	…	三振	…	…	三ゴ	…	…	遊ゴ	…
〔三〕福　司	3	0	0	0	…	…	三振	…	…	遊ゴ	…	一邪	…
〔二〕諏　訪	3	0	0	0	…	…	二ゴ	…	…	二ゴ	…	三ゴ	…
〔遊〕土　崎	3	0	2	0	…	…	投ゴ	…	…	左安	…	…	右安
		：	：	：									
残塁3	28	0	3	0									

【尽誠学園】	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9
〔左〕中　道	4	0	0	0	右邪	…	三ゴ	…	三ゴ	…	中飛	…	…
〔二〕田　中	4	2	0	0	遊失	…	投ゴ	…	右飛	…	三失	…	…
〔中〕仲　村	3	2	1	1	左直	…	四球	…	…	遊失	中安	…	…
〔一〕榎　原	4	1	3	1	中3	…	左直	…	…	左2	左2	…	…
〔右〕岡　嶋	2	2	1	1	遊ゴ	…	…	右安	…	四球	左犠	…	…
〔三〕浜　口	2	0	0	0	…	左飛	…	投犠	…	投犠	右飛	…	…
〔投〕渡　辺	4	0	0	0	…	遊直	…	中飛	…	三振	…	二ゴ	…
〔捕〕馬　生	4	0	2	1	…	中安	…	三振	…	左2	…	左飛	…
〔遊〕田　代	3	0	0	0	…	投ゴ	…	…	一ゴ	四球	…	三ゴ	…
		：	：	：									
残塁5	30	7	7	4									

【三塁打】榎原　【二塁打】加藤　榎原2　馬生
【失策】能代5　【暴投】成田2

投手	回	打者	安	振	球	責
成　田	7	33	7	2	3	1
村　上	1	3	0	0	0	0
渡　辺	9	30	3	7	2	0

【審判】（主）相沢　（塁）岡本　中村　工平



はごめんだ。

4回裏　岡嶋一・二塁間を抜くヒット。浜口スリーバントを成功させて、走者二進。成田暴投で岡嶋三進。成田2球連続の暴投で岡嶋生還、追加点を許す。

やはり雨の影響か？　ここは落ちつけ、ナリタ～。なに、2点ぐらいどうということはない、と私が打席に立つわけではないので非常に無責任なゆとりの論評。

5回表　加藤三塁線を破る二塁打（能代初ヒット）。成田送りバントに失敗、飛び出した加藤二塁でタッチアウト。依然3人ずつで終わる。

じっくり構えるのもいい。だが、限度があるぞ。向こうは試合巧者。なにしろ、弱きはくじき強きには戦わず道を譲る、あの名うての明徳義塾と同じ四国の高校なのだ。あの緩いカーブに手こずる君たちではあるまい。じっくりボールを見て力強くたたけ、とは監督の言うこと。私が出しゃばることではない。そろそろ応援席にいらだちの様相。

6回表　2死後、第1戦の殊勲者土崎がレフト前にヒット。が、後続なし。

6回裏　仲村のショートゴロを土崎絵に描いたようなトンネル。続く榎原前進守備の三塁頭上をワンバウンドで越す二塁打。岡嶋四球で、ノーアウト満塁。絶体絶命のピンチだ。しかし、さすがは成田、浜口の初球スクイズを難なくはずし、三本間にランナーをはさみ、まず一難去ったかに見えたが、なんとキャッチャー加藤、三塁に大悪送球。仲村に続いて榎原までがホームインしてしまった。ここぞという時にかさにかかって来るのが試合巧者。2死後、馬生のレフト線二塁打で岡嶋生還。5点のアヘッドを許す。

いかに強打の能代高と言えども5点のハンディはきついゾ。横綱と言えども、十両に寄り切られることがないとは言えないのだ。それが勝負だ。そろそろ、ここーで一発、ノシロ、といきたい。という気持ちを察してか、わが校応援団、いよいよとっておきの「東西南北」の演奏を開始する。この演奏とともに、県大会での、西目高戦の奇跡の逆転が始まったのだ。ブルペンでは、まんをじしていた母校期待のもう一人のエース、村上君がピッチング練習を始める。

これぞ男と男の勝負を見た

7回裏　1死後、田中の三塁ゴロを福司悪送球。ランナー二進。迎えるは四国屈指の強打者仲村。よき敵ございなれと成田、真っ向からストレートで押しまくる。敵もさる者、成田の剛球をフアールでかわす。連続ファール十球を数える第十七球目、ついにセンター前にヒットを許す。田中生還の6点目。勝つもよし、負けるもまたよいではないか。これぞ男と男の勝負なのだ。空前絶後（？）の敬遠作戦をとった四国方面の監督は、この力の対決をどう見たであろうか。この後力尽きたか成田、榎原にレフト線二塁打され、この日始めての自責点となる追加点を許す。

連続十球のストレートとファールの応酬は見ていて迫力があり、一球もかわそうとしない成田君の気迫はすばらしかった。「松陵健児魂いまだ健在なり」の感を強くした（私にそんなものがあったかどうかは、記憶にございません）。

8回裏　投手村上、成田はライトに回る。村上持ち前の速球で、簡単に3者凡退に押さえる。

9回表　土崎この日2本目のヒットを放ち、ノ